

永遠の耽美作家谷崎潤一郎と
劇界の鬼才武智鉄二が描く
愛の極致



もう 墮落してますわ、わたくし

白日夢

HAKUJITSUMU

原作 ■ 谷崎潤一郎 * 監督・脚本 ■ 武智鉄二

佐藤 慶 * 愛染恭子

勝然武美 ■ 川口小枝 ■ 殿山泰司 ■ 茂山千五郎

撮影 高田 昭 ■ 音楽 芝 祐久 ■ 製作 池 俊行・前田有行

カラー作品 ■ 成人映画

武智プロ製作 ■ 富士映画配給



白日夢

武智鉄二の美学そのものの映像美が、十七年の歳月を経て再び甦える——それが「白日夢」。

東京オリンピックが開催された一九六四年。日本映画界をセンセーションな興奮に巻きこんだ「白日夢」。夢の中のことが、うつつであるのか、それすらも定かでない。ひとりの青年の意識内にひそむ潜在欲望を描いた、その強烈な性描写は、マスコミ界の賛否を浴び、空前の大ヒットを記録した。

ある日、青年倉橋順吉は、歯科医院で美しい令嬢、葉室千枝子に出会った。

二人は並んで歯科医（ドクトル）の治療を受ける。順吉は麻酔注射をうたれ、霞んでいく意識の中で、信じられない光景を見た。

ドクトルが千枝子を裸にし、胸に歯型の残るほどの口づけをする。そしてドクトルは、デイスコで、ホテルで、千枝子をいたぶり犯

*原作 ■ 谷崎潤一郎

時代は今、ヌーベル・デカダン

今、若い女性に最も人気のある作家をご存知ですか？

五木寛之？ ウーン、不動の4番バッターだけど、新鮮味が……

片岡義男？ 相変わらず、陸サーファーの筆叢ではあるようだが……

田中康夫？ 二作目以降で評価したい。——というわけで、夏枯れともいえる文学界。ここへ来て俄然、注目を集め出したのが、谷崎潤一郎。パルパリアの狂王ルードウィッヒ二世、産業革命期の悲劇エレファント・マンと、どこか悲劇的ともいえる19世紀のデカダンを熱烈支持する若者たちにとって、谷崎潤一郎の世界は、「現代のサンクチュアリ」と映るのでしょうか。

谷崎潤一郎の作品は、古典にして新刊本である。とくに、短編『白日夢』は、今なお新しくして、国籍不明風の匂いすらする。嘘だと思ふなら舞台をパリか、あるいはベルリンの裏通りに移してみるとよい。けっして異和感を覚えなければかりか、「谷崎の『白日夢』のほうが、翻訳物じゃないの？」と思う人もいるはずだ。

よみがえった谷崎作品は、ヌーベル・デカダンとでも呼ぼうか。頹廢的で、どこか物憂げ。耽美派と称された谷崎ならではのよみがえり方！

ただ「谷崎がこの作品を書き下した時には想像だにできなかったことが、一つだけある。現代に生きる我々は、自らの意志で、タラウすることができるのだ！ キナ臭くなる一方の、現在の社会状況に必死に抵抗するかのよう。

こんな時代だからこそ、谷崎が新しい。こんな時代だからこそ、白日夢にひたりたい。

何がタラウで、何がタラウでないかは、谷崎＝武智の世界にトリップできた人間にのみ、見きわめることができる！

す。千枝子はドクトルを憎みながらも、歓喜の声にうちふるえるのだった。

千枝子へのつのる想いをどうすることもできない順吉は、遂に千枝子を刺し殺してしまふ。千枝子は死に、ドクトルから解放されたのだが――。

出演は、令嬢葉室千枝子に、モデルの世界から一躍この映画の主役に抜擢され、ハード・ファックを披露する愛染恭子。ドクトルに「戒厳令の夜」などベテラン俳優の佐藤慶。そして青年倉橋順吉に勝然武美が扮している。

耽美な世界を描いては比類のない谷崎潤一郎の原作をもとに、エロティシズムの映像美に徹する武智鉄二が製作・脚本・監督を手がける、今年度話題の異色作。

武智さんの新『白日夢』に期待して

歌舞伎やオペラの世界での卓抜な演出家、理論家である武智さんが、はじめて映画に手



白日夢

HAKUITSUMU

を染められたのは一九六四年の『白日夢』であったが、それは武智さんの仕事の一貫した特徴である民族の芸術伝統に対する深い理解と果敢なる前衛精神が結実、爆発した傑作であった。爾来十七年、解放を求めて奔流する世界の性革命の波と、反動化の色を日々濃くする日本の風の中で、武智さんは再び『白日夢』をもって何を世に問わんとするのであるうか――

大島 渚(映画監督)

白日夢 テーマソング

ディーブ・ロマンス
ヒット・チャート急上昇中!!
歌 ■ 西浜鉄雄 <バーボンレコード>

早くもマスコミで話題集中!!

ハード・コアに挑戦する

愛染恭子

平凡パンチ
%号



「自分がリードするより
カレにリードされたい」

武智エロス17年ぶりに復活！裁判も辞さず

テイリー・スポーツ%号

これが100万円の水着！ 武智鉄二監督
が特注した西陣織！
スポニチ%号

まさに「白日夢」の本番%
報知新聞%号



佐藤さんのテクニクは最高でした

週刊平凡%号

話題の本番に挑む

週刊現代%号

熟年佐藤慶
オトコの演技



いま、日本で最も注目されるハードな中年・佐藤慶
サンデー毎日%号

●特別鑑賞券1200円絶賛前売中(一般1500のところ) 大学1300

近日ロードショウ

伊勢丹斜め向い・三越ならび
新宿京王 (356) 3518